

# 国際系航海学習(1次:10月6日～15日)を終えて

秋田

今回の乗船は、心得に書いた通り、リベンジの場でした。昨年の乗船実習は、期間も短く、ダラけてしまう所が無いとは言えませんでした。しかし今回は、二年生として一段階成長して降りてやろうと、心の中で思っていました。そんな中で始まった乗船。初日は台風の影響で、スケジュールが変わりました。

二日目からは早くも航海が始まり、今までに体験した事の無いような船酔いを体験しました。でも、船員さんの面白い話や会話で、色々な事を学んだり、笑ったりと、四時間もあるワッチが短く感じ、とても自分の為になりました。船内生活では、普段あまり気にしない節水という大事なことがあり、昨年に比べて、少しは節水できたと思います。ご飯の時間、最初は効率が悪く、サボっている人もいましたが、反省会などを通して、十九名全員が協力をし、効率良くできるようになりました。昨年から一年と少し経った朝と夕暮れの旗揚げ旗下げも、今回、自分の中では良くできたと思っています。あと、ご飯がとても美味しく、船酔いの時などは勇気づけられました。今回の乗船で、一番思い出に残っている事は、四時間もあるワッチです。なぜかという、今まで海図やログブックなんて書いた事はありませんでした。でも、班員五人が協力し操舵や、天候の確認など、



なんとか乗り切る事が出来ました。最初は、凄く怖そうと思っていた船員さんとの会話は、本当に楽しくて、たくさん笑い、凄く星に詳しいロマンチストな方や、冗談などでたくさん笑わせてくれる方がいて、一番楽しかったです。最後に、この乗船はもう終わってしまうけれど、絶対にこの経験を忘れずに、残りの学校生活を過ごし、将来にも活かしたら良いなと思います。この十日間、本当にありがとうございました。

栗山

自分は航海を終えて思ったことがあります。

まず一つ目は仲間との協力です。最初の方はみんな船酔いとかでだらけたりしていたけど反省会をしてから一気に流れが変わりました。乗船しただけでこんなに気持ちの切り替えが早くなるのだと思いました。

二つ目は行動についてです。ワッチや旗揚げ、旗下げなどのやるべきことがたくさんあって最初は大変だったけど慣れていくうちにすべての行動を時間通りにできるようになりました。五分前行動は後半になると確実にできるようになっていました。みんなの声かけがあってこそだと自分はいつも思っていました。やはり一人ではできないので仲間が必要です。一次航海十九名の力が全ての行動で発揮されていました。この行動の力というものは社会にとても十分通用すると思います。

三つ目は励まし合いです。自分は船酔いの時に仲間に励ましてもらったおかげで乗り越えられました。ワッチに行く時も「頑張れ」などの励ましの言葉をもらいました。人の言葉というものは魔法のようなものです。言われると少し勇気が湧いて不安が頭から消えていきます。この十日間で何度も聞いてきたし自分でも言ったりしました。

最後にこの航海で学んだことの結論として自分はとても成長できたということについて書きます。自分は朝が苦手な船酔いにも弱いし集団行動が得意ではないです。でも終わるころには全てを成し遂げていました。それについてはとてもうれしいです。これだけ成長させてもらったと実感してくると、船長をはじめ船員さんや教官そして親に感謝したいと思います。このような体験は二度とできません。この乗船で学んだことをこれからの生活などに生かしていけるといいです。



今西

私は最初この乗船が、すごく不安で嫌でした。実際、今振り返ると想像以上につらく、「なんでここにいるのだろう」と考えもし、人生で一番苦しい思い出になった乗船でした。しかし、それと同時に本当にためになることを多く学べた乗船でした。例えば、佐藤先生がおっしゃった「社会に出たら興味がないことでもやろうとしなければならない」ということにすごく考えさせられました。乗船してすぐの頃、一次乗船の生徒は、「国際系」というフィルターを通して全てを見られているのだろう、と思っていて少し注意されただけでやる気を失っていました。私が実際に佐藤先生の言葉の大切さに気付けたのは私が食当のときでした。その時自分はその当番を全うしたつもりでした。しかし、その日の反省会で先生に、「食当はもっと動けるはずだ」と注意を受けました。その時は先生の言っている意味が分からず、「自分はやっていた」という考えばかり浮かんでいました。しかし、そのあと考え直すと、自分だけができていたってなにも意味がなく、周りを見る目が不足していたのだなと反省しました。少し納得がいていなかったことと、少し船酔いしていたこともあって、少し言い方が悪くなってしまうのですが、「社会に出たら理不尽なことでも時にはやり通さなければならないのだな」とその時実感しました。又、注意を受けるのは嫌ですが「怒られるうちが花だな」と思え、間違いを訂正してくださる先生方に感謝することが出来ました。他にも、苦しい時でも周りを気遣うという大切さに気付きました。自分が酔っているときに友達が手助けをしてくれたり、皆がつらいとき、誰かが「もう少し！」などと声をかけてくれたりすごく一体感を感じられました。又、前に書いた通り、今回の乗船は人生で一番辛かった体験なので、今後はちょっとやそっとのことには耐えられる、という自信ができました。他にも、神戸の一万ドルの夜景を見ることができ、夜中のワッチ中にきれいな星を見ることができ、心に深く残った乗船になりました。

今回、私たちが乗船するにあたって色々尽くしてくださった先生方、ありがとうございました。



榎本

自分は航海を終えて、まず思うことは大島丸に乗ることができて良かったということです。本当に貴重な経験になったと思います。そう思った理由を挙げていきたいと思います。

まず、一つ目はやはり『協力』です。これまでの人生でレポートなどをグループで作ったりする際に多少の協力はしてきました。しかし、乗船して仲間や自分が酔ってとても辛い時でもワッチをしなければいけなかったり動ける人達で食事の準備をしなければいけないという状況での協力は全く違うものがありました。特に自分達の班は1人少ない4人班な上に、揺れている時は1人、もしくは2人動けない状態になってしまうことが多く、少ない人数で気象観測や操舵などの仕事を行ってきました。それでも恨んだりすることなく助け、自分が辛い時に助けてもらえた時は、とても嬉しかったです。

二つ目は、良い意味でプライドを打ち砕かれたことです。昨年度の基礎航海の際は、酔ってはいましたが、吐きたくないというプライドでなんとか押し殺し、乗り切りました。

しかし、その時は吐かないという目的だけのために最終日は動くことができませんでした。今年はどうしても耐えられずはいてしまった後、スッキリして動けるようになり、吐いていない周りの人を見て悔しくもなりましたがその人より動けていればその方が良いと思い直せたので良かったと思います。



最後に、様々な人とコミュニケーションをとり、色々な話を聞き出し、関わったことに感謝します。海洋系に比べ、知識は少なく、覚悟もなかったかもしれませんが自分は国際系ならではの学び方ができたと思います。大島丸

の船員方、I次航海の2人の教官、I次航海のメンバー、この班で乗船できたことは良い経験ですし、嬉しく思います。ありがとうございました。

#### 金澤

自分は、今回の航海学習は正直あまり気乗りはしていませんでした。なぜなら10日間も普通の生活から離れるのが怖かったからです。

いつもと生活のタイムスケジュールも違えばあらゆること全てが違い普段とは違うことを学び、船員さんに怒られたらどうしようかと思うとすごい不安でした。また基礎航海では団結しきれずに終わってしまい今回もまたそうなるのではないかという不安もありましたが、いざ乗船前指導では先生方からは船の魅力や小笠原の魅力などを聞いてとてもワクワクしました。国際系初の24時間ワッチでは、とても多くのことを学びました。例えば「報告するときに小さな声だと船内の音でかき消されてしまうため大きな声を出さなくてはいけない大切さ」これは大人になった時の第一印象のあいさつでとても役立ったり、「人の話を聞く大切さ」これは自分はいつも人の話が右から左になってしまいよく怒られるのでとても良い経験になりました。他にも基礎航海ではやらなかったログブックへの記入や引継ぎ。送信はしませんでしたでしたが気象通報もししっかりと行わなければ乗員の命にかかわったり、適当なことをするとその船の信用度に関わったりするので、一つ一つの仕事の重さや大事さを学ぶことができてとても勉強になりました。掃除でも船員さんたちに迷惑をかけるための引き継ぎであったり、毎日手を抜かずに掃除することで物を大切に長く使い続けられるようにすることを学ぶことができました。

他にもよっていても仕事はしなくてはいけないので自分がすべき仕事に対する責任や義務というもの少し学べたと思います。このように大事なことをたくさん学ぶことができたのも最初は不安だと思っていた普段とは全く違う生活や勉強によるものでありこの航海実習がなければ一生知ること学ぶこともなかったことを知ること学ぶことができて本当によかったです。心構えで目標にしていた真剣に楽しむこともできたのでこの航海学習はとても良いものになったと思っています。この10日間本当にありがとうございました。



#### 川角

航海学習を終えて振り返ってみると、とても楽しかったと思います。航海学習で自分は様々な事を学ぶことができました。一つ目にチームワークです。船に乗ると必ずと言ってもよいほど、「酔い」というのがありますがだいたいの方が酔いながらも食事当番の手伝いや周囲への声かけなど一次の人全員が協力していたのでとてもよかったと思います。二つ目に、船や海についてです。オールハンでは、佐藤先生の説明でたくさんの事を知ることができました。船の名前や航路の入り方、ブイ、旗の種類や意味などたくさんの事知ることができました。また、小話で旗の上げ方などでその船の質がわかると教えてもらい、自分も船員の仲間になれたような気がしました。ワッチでは、船長やそのほかの方々にたくさんの事を教えてもらいました。夜のワッチではじぶんの人生で経験したことがなく、よい経験となりよかったです。最初のワッチでは、「4時間なんて無理だわぁ」と思っていたのですが、船長やチョッサー(一等航海士)が気遣ってくれたおかげでつらかったけど、今思えば楽しかったと思います。自分はこの航海学習で思ったことは、はじめは将来は海の仕事に就くという考えはまったくなかったけど、航海学習を終えて海の仕事もよいのではないかと思い、自分の将来の幅が増えました。高校卒業後は東京海洋大学に行きたいと思っています。そこで自分は高校生活中に行った基礎航海、航海学習で学んだことを活かし、この航海を無駄にしないように頑張ります。自分たちの航海に携わってくれた先生方、大島丸の船員の方々にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

私は今回の乗船実習を終えて学んだことが3つあります。

1つ目は節水です。普段の日常生活では、ドミトリの中で節水しようといわれることはありますが、ここまで徹底した節水を行うことはありませんでした。今回、節水を行ったことで、普段の生活の中でどれだけの水を無駄使いしているのかを痛感しました。

2つ目は集団行動です。私は今回乗船するまで集団行動が苦手でした。ドミトリ生活の中でも、特別浮いた行動をしているわけではありませんが、集団で動くことに苦痛を感じたことが何度もありました。しかし、今回の乗船で仲間と協力しあう大切さや、仲間を思いやる心を改めて学ぶことができました。

3つ目は社会に出た時の辛さです。今回の乗船実習では、基礎航海学習では体験することの出来なかった24時間のワッチを体験することが出来ました。夜間のワッチを含め、正直とてつもなく辛かったです。しかし、この4時間の中でどれだけのことが学べて、どれだけの知識を身に付けることができるかを考えながら作業していたら、4時間では足りないくらいあっという間でした。これは社会に出た時でも同じことなのではないかと思います。どんな職業でも辛いことや投げ出したいと思うことはあると思います。しかし、その辛さの中で必ず学べることはあると思うし、少しでも自分の力になると思うと何事も乗り切れると思います。

今回の乗船実習で学んだことは今後の日常生活でも生かしていきます。10日間という海洋系に比べては短い期間でしたが、知識の浅い自分たちにも真剣にご指導してくださった船員の方、教官方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

#### 小林（泰）

この航海学習で学んだことは、数えられないほどあります。まず、オールハンでの教官から学んだ船の知識です。学んだことで一番覚えているのは、船の知識です。コンテナ船や自動車運搬船などの見分け方を教えてもらいました。ほかにも、二十四時間ワッチでは、

チャートへの位置入れのやり方、船を見つけた時の報告のやり方、操舵、気象通報、ログブックなどは、今後一生ない体験になりました。中でも、気象通報の欄にあった気圧などについて考えることはなく、この航海実習を通して、考えることができてよかったです。

出入港作業の準備では、自分が目標にしていた「やる作業を覚え言われる前に動く」ということは出来ませんでした。言われてからすぐに動くこと、「何かやることはありますか。」という声を出すことができたので、普段以上に動くことができたと思います。

そうじでは、一次航海の人とやったことをまとめた結果、仕事のやり方を船員さんに聞くことが、ありましたがあまり聞かずにできました。最後の朝の掃除では、船員さんがいなくどうしてよいのか考えることもありましたが、しっかり言われたことを実行したため、通常どおり掃除をすることができました。

教室での教官の話は、どのようにここまでの道のりを歩いてきたのかという話を聴き、これからの手助けとなる知識を得られてよかったです。

振り返ってみてハプニングなどもありましたが教官、船員さんなどの話を聞き、これから必要になる知識、常識を学ぶことができました。

本当にありがとうございました。



#### 小林（直）

自分には航海学習が始まる前に心配だった事が有ります。それは船酔いです。

自分が小学校三年生くらいだったころ、よくフィリピンのセブ島などの海系の観光地に祖父と旅行に行っていた時期があり、その時には楽しそうにフェリーやクルーザーに乗っていた記憶があります、そ

これから中学校卒業くらいまであまり船に乗らなくなりましたが、「昔は船酔いなんてしなかったのだから今でも別に大丈夫だろう。」と考えていました。大島海洋国際高校に入学したのはこの考えがあったからというのがあります。

しかし、実際にこの大島海洋国際高校に入学し、二か月ほど生活を送ってからの基礎航海学習において、その考えを改めさせられることになりました。乗船してから二日目くらいの時に、うねりと波の影響で船が揺れ動いており、その時に初めてトイレに行って吐きました。よく船酔いは病気ではないという言葉に乗船中などにはよく耳にしますが確かに自分が今まで罹った風邪やインフルエンザ、腹痛などの病気の時よりも吐き気はひどく、動く気力を奪われていました。そのため教官に動け！と叱責を受け、船員の方々にも迷惑をかけてしまっていました。

そんなこともあって船が嫌になって国際系に行ったのですが、国際系にも結局乗船はあり、そのうえ二十四時間ワッチが追加されるというので乗船前のモチベーションは最低でした。実際に乗船して六日目くらいまでは船酔いで動けなくなることが多々あり、このまま終わるのかなと思っていたのですが、神戸に入港して気分が晴れたのかその後はあまり酔うことはありませんでした。六日間と、前回の基礎航海の経験から、酔いに強くなったというのもあるかもしれません。

航海についてと題しておきながら、ほとんど船酔いについての話になってしまいました。とにかく自分が言いたいのは、乗船は船酔いにたいしてと自分の心を強くしてくれるということです。

#### 高沼

最初私は、この乗船に様々な不安を抱えていました。1つは、船酔いです。私は前回の基礎航海で、すごく酔ってしまい、とても苦しい思いをしました。その上今回は、小笠原まで行くというので不安は倍増していました。そしてやはり酔ってしまいましたが、自分と同じように酔っているのにもかかわらずみんなのために仕事をする同級生の姿を見て、自分も頑張らなくてはいけないと思い、そう思うと不思議と少しだけ酔いが無くなり次の日からは、酔っていても動くことができました。そこから強い気持ちを持つことで、苦しく辛い状況でも乗り越えられるということがわかりました。2つ目の不安は、船員さんとしつかりしたコミュニケーションが取れるかということです。以前の航海では、船員さんとあまりしゃべる機会がなく、ちゃんと話すことができるか心配でしたが、船員の皆さんは時には厳しくいう場面もありましたが、船での仕事内容や船に関する知識を、優しく丁寧に教えていただき最初の頃抱いていた不安はすぐになりました。また今回は、24時間ワッチを通して船員からしか聞けない話をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。



またワッチの間に面白い話をしてくれたおかげで辛いはずのワッチを楽しみ気持ちで乗り越えることができました。今回の乗船では、失敗や足りていなかった所も多々あり、時には投げ出していまいそうな時もありましたが、最後までこのメンバーでやりきることができて、本当に良かったと思います。そしてこの乗船で学んだ多くのことを、船を降りた後も活かしていきたいとおもいます。

#### 高橋

私は正直、今回の乗船が嫌でした。嫌だった理由は船酔いとこのメンバーで乗りきれるか不安だったからです。でも実際に乗ってみると、船酔いはだんだんと慣れ、良くも悪くも周りの生徒のいろいろな面を見ることができ、とても楽しかったです。波浮港を出港してすぐ、あまりの揺れに酔いました。そこを乗り越えると、船酔いに強くなった自分に少し感動したことを覚えています。そのほかにもいくつか印象に残ったことがあります。一つ目はワッチです。基礎航海にはなかったワッチが加わりとても大変でした。特に夜間のワッチは真っ暗な状態で、視力の低い私にとっては不安だらけでした。班員と助け合い、初めてのワッチを終えたときにはとても達成感がありました。ワッチ中、船酔いで辛かったときには2/oや3/oに話しかけていただき、かなり救われました。ワ

ッチは本当に大変だったけれど終わってみると、きっとこの先、生きていく上でこのような経験はできないと思うととてもいい経験をさせていただいたと思います。

二つ目はヤシズリと棒ズリです。全員で一丸となって声を出すことができ、普段話すことが苦手な人も一生懸命声を出していて・ヤシズリと棒ズリでみんなの結束力が強まったと思います。

今回の乗船を終えて一番思ったことは、『乗船してよかった』ということです。初めは嫌だったけれどいざ腹を括って乗船すると、あまり話したことのない人たちとも話せてとても新鮮でした。このような充実した濃い経験ができたことを誇りに思います。班員や部屋員をはじめ一次航海のメンバーに感謝しています。本当に楽しかったです。

最後に教官の先生や船員の方々、厳しくも優しくご指導いただきありがとうございました。今後この実習を糧にしていきます。本当にありがとうございました。

#### 増谷

私は乗船実習自体嫌でした。国際系を選んだ理由の一部には、乗船日数が少ないからということもありました。実際に終わってみても、もう二度と船に乗りたくないと思いました。しかし、乗ってよかったと思えることもありました。それは、皆のいいところ、悪いところが見られたことです。

乗船すると、ドミトリ生活とは違う二十四時間を皆と過ごします。今回から導入された国際系の二十四時間ワッチ、航海中のヤシズリや、棒ズリなど大変なところ沢山ありますけれど皆極力頑張ろうと声をかけ積極的に全てのことを行っていました。いつもドミトリなどでもリーダーシップをとっている人はもちろん、普段静かな人も声をかけたり、うるさい人も意外と真面目だったりなど、いいところが見つけれられました。これらは、ドミトリ生活だけでは見られないものです。

ですが一方で、悪いところも目立ちました。素早く動けと言われているのに、できない人、時間になってもずっと喋っている人などいました。実際私は、棒ズリの時に腰が痛くなって中腰をやめてしまい、注意されてしまいました。これらは最終目標になっても治らない人は、治りませんでした。



乗船中は、良いところ悪いところが皆、目立ちました。しかし、乗船は終わっても、学校は

まだまだこれからです。乗船で気づいたこと学んだこと、これらを学校生活で活かして行けたなら、今回乗船して良かったと思えるのではないかと思います。

最後に、今回の乗船に関係していただいた方々に感謝しています。ありがとうございました。

#### 岡田

今回の乗船は正直なところ本当にいやでした。「自分は国際系で絶対乗船ないだろうと思っていたのに本当にやだなあ」なんてことも考えていました。そして乗船した初日に自分はワッチに入っていました。慣れないことをして頭が痛くなったり、酔ってしまったりなど色々あり家に帰りたいとまで思えるようになりました。しかし2回目の0-4ワッチの時自分達はセカンドオフィサーと一緒にでした。その回の時にセカンドオフィサーは自分達を外に連れて行って星々の話や解説などをしてくださり、都会や島なんかでは見られない満天の星空を見ることができ自分の中の乗船のイメージが変わり、乗っていて楽しいこともあるようになりました。



途中、台風で小笠原に行けなくなるハプニングがあり少し残念でしたが、行く先が神戸になると聞き喜んでいて自分がいて「自分は本当はどっちに行きたいんだ」と思っていました。今は、神戸でよかったと思っています。

神戸では中華街で肉まんを食べたり怪しい店（やらしとかではなく）などに入り他国の文化にふれ、デパートではエスカレーターの左右の立っている

位置の違いで、「同じ国でもこんなに違うんだなあ」と感じる事ができて、いかにも国際系ばいなと感じました。

今回の乗船ではつらいことも多く大変な航海でしたがそれ以上に楽しいこと、ためになることがありとても充実した日々でした。この航海を支えてくれた先生や船乗りの方々本当にありがとうございました。

稲葉

私は、大きく分けて三つのことを航海学習から学びました。一つは、人間関係の保ち方です。船内生活やワッチを共にし、船酔いしている極限状態の時も集団行動をしました。自分を甘やかして規律を乱すことはできません。私は、良好な人間関係の形成には忍耐力が必要だと思っていました。しかし実際には、それだけでなく、自分の意思を相手に伝えるためにコミュニケーションをとることが重要だと気付きました。

二つは、勤労観や職業観についてです。私にとって航海学習はとても貴重な体験になりました。特にワッチや入出港の作業の時は緊張感が高まりましたが、やり終えた後は充実した気持ちでいっぱいになりました。しかし度々厳しい注意をいただいて、仕事の責任というものも感じました。

三つは、航海学習を通した国際感覚の養成についてです。約二か月後から留学することもあり、身近に考えることができました。ワッチ中にいくつかの無人島を発見しました。一見すると何の変哲もないただの島に思えましたが、日本の排他的経済水域の確保に重要な役割を果たしていました。領土問題は、それぞれの利害と密接に関係しているため慎重な議論が必要だと思います。また、ラジオから聞こえてくる情報はほとんどが英語でした。もはや英語はネイティブスピーカーだけの言語ではありません。日本人の語学力の育成の必要性を強く感じました。



加藤

乗船して最初に心配になったのはワッチのことでした。夜中までワッチをやると知ったとき、国際系もやる年に来てしまったのか、と白目をむきました。ですが、十日間も船の上で酔いながら行う実習はこの学校ならではの、貴重なものだ気づくと楽しくなっていました。一年のころと比べ、周りの人たちのことを多少知っていたので、変に気を使ったりしなくて楽だったからかもしれません。最初は、十日間なんて意外とあっという間に終わってしまうかもしれない、大事に過ごさなければ、と考えていました。吐くたびに早く終われと思ってしまったのはしょうがないことだと思っています。うずくまっていると鼻に入ったりして痛かったし、何も食べられなかったので胃液だけが喉を焼いてそれはもうとても苦しかったです。三日目に買い物をするため上陸したときは、揺れない足場がどれだけありがたいものか知ることができました。上陸で気が緩んでしまったのか、避難訓練での動きが遅かったと注意されたとき、もしもこれが訓練じゃなかったら死んでいたのかも、と考えさせられました。もしかしたら、自分のせいで誰かが死ぬかもしれません。乗船している間も、地上にいる間も、身に危険が迫ったときは迅速に行動しなければならないと改めて考えさせられたものでした。夜中の0～4ワッチは昼間よりも断然楽しかったです。昼間は遠くに見える船の黒い影を見つけて報告という形でしたが、夜は星とは違う赤や緑の光を探すので、宝さがしみたいでした。チョッサーにマスト灯のことを教えてもらい、船がどっちを向いて進んでいるかも判断できて楽しかったです。

目的地の神戸について、まず水族館に向かいました。今でも後悔しているのが水族館で、姪甥の三人にイルカのぬいぐるみを買っていかなかったことです。あの小さい子供たちが笑顔で、ありがとうと言ってくれたかもしれない考えると惜しいことをしたと心が沈みます。こんど代わりになるように、クリスマスプレゼントは奮発しなきゃなとおもいました。



八日目は8～0で、たった四時間の間に七回も吐いてしまいました。水分を取ったらその分だけ薄まった胃液が口から出てきてちょっと楽しかったです。

一年生の時の乗船で吐いた回数を一夜で更新したと考えると正直にすごいことだとは思えませんでした。

九日目、自分は当直だったのですが、緊張からかいろいろとやらかしてしまいました。旗下げの笛の音はかすれてしまい、風呂から上がるのも遅れました。

最後の最後で失敗をしてしまいましたが、十日間の乗船はとても楽しかったです。しばらく五年間くらいは船に乗ることは遠慮したいですが、機会があればまたいつか乗船実習をしたいです。

川瀬

今回の航海はとても長いように感じました。航海学習の中で印象に残っていることは2つあります。

1つは四六時中、酔っていたことです。まず、大島から横須賀に向かう航海で酔いました。次に小笠原に向かう時の航海です。その時の8-0ワッチはずっと酔っていて早く終わらないかと頭の中でずっと考えていました。眠気と酔いで意識が飛びそうになりながらなんとか頑張りました。その後の神戸に向かう時は追い風でほとんど酔わなかったのですが、神戸から大島に帰る時も酔って、今回の航海学習で何回吐いたか覚えていません。

2つ目は小笠原に行けなかったことです。小笠原に行けないと知ったのは最初の8-0ワッチの時です。自分が操舵している時に電話が鳴り、東京に引き返すというように話していた時は驚きました。そして船を反転させるために舵を切ったのが自分だというのは何とも言えない思い出です。イルカが見えなかったのがとても残念です。神戸に行って、おいしいものを食べたのは楽しかったのですが小笠原のことを思い出すと少し悲しいです。

この航海が終わって、今思うと学んだことが多々あります。酔いを少しでも軽減する方法もそうですが、乗船メンバーと協力してこの航海を乗り越えたことを嬉しく思います。自分が酔っていて動けない状態でも同班のメンバーがフォローしてくれたことに本当に感謝したいです。他のワッチの中で助けてくれた船員さん達にも感謝したいです。このフォローがなければ酔いながら操舵することは難しかったと思います。数少ない酔ってない時には船員さんたちには様々なことを教わりました。そのことを忘れずに今後に生かしていきたいです。この船に乗るのはこれが最後だと思うので最後にここまで乗せてくれた大島丸にお疲れさまと言いたいです。

板宮

今回十日間という長いようで短かった航海学習があと少しで終了します。

正直、はじめに班構成を見たときには唯一の四人班でちゃんと協力してやっていけるのか、とても心配でした。案の定、途中では私自身の中で班員とうまくコミュニケーションをとることができず、悔しい思いをしてかなり辛かったことがありました。

しかし、それでも仕事は回ってきます。その仕事の中で班員との上手なコミュニケーションの取り方を少しずつ私なりに学ぶことができたのではないかと思います。

なぜなら、その後の班での行動はとても活動しやすく、また効率的に仕事をできるようになることができたと思うからです。このことは、これからも必要になるコミュニケーション能力を養うためのとても素晴らしい経験なのだと感じました。

次に大変だったと思ったことはやはり船酔いです。

船酔いは私が想像していたよりも全然違ったもので驚きました。そしてわたしが酔ってなくても、周りの人が動けなくなってしまうことで今までは誰かがやるだろう。という軽い考えを持っていても多少はなんとか耐えていたことも、自分がやらないと全く作業が終わらない。という場面になり、改めて私自身の当事



者意識の低さを知りました。そして低いままではよくないと、航海実習を通して意識を高く持とうとすることができました。

ほかにも成長したと全体を通してとも言えると思うことは、自分の失敗をほかの人にはさせないように情報共有することや、それぞれが動く意思をもって動けたことだと思います。

今回、私たちがたてた目標は、「笑顔で降りること。」です。

明日、私は楽しかったこと、成長したこと、辛かったこと、様々な経験をするのできた、充実していた、この航海学習を思っ、目標達成できると思いました。

一生の経験をありがとうございました。

柳

航海実習を終えて、最初に思ったのはあっという間だった、という事でした。ですが、大島丸で過ごした十日間はすごく充実したものでした。

乗船する前日に、乗船教官から明日の予定が変わったと聞かされ、元々不安だったのがさらに不安になり、そのまま乗船となりました。船酔いをするのではないかと、また予定が変わって何か問題が起こるのではないかと、などネガティブな気持ちになっていました。そんな中でも仲間達と協力したり、佐藤先生から言われた「元気」という事を考えながら小笠原へ向かっている途中、小笠原に台風が近づいているという事が分かり東京へ引き返しました。そういった事もあり、ますます不安が大きくなっていきました。これからの事も分からずにこの乗船は充実しないまま終わってしまうのかと思っていました。

ですが、船長や船員の方々、乗船教官や海洋科の先生方が自分達のために頑張ってくれ、神戸に行く事が出来ると分かった時はすごく嬉しく、その頃には不安もなくなり今回しかない乗船で、さらに今までの先輩方も行ってない場所に行く事が出来るということで、楽しもうという気持ちが強くなっていきました。乗船教官に怒られた事や言われたこと、船員の方々に教わった事を活かして神戸まで行き、そして無事に帰って来ることが出来ました。船員の方々は皆さん優しく、時には厳しいけれど冗談を言って笑わせてくれたりと本当に良い人ばかりでした。乗船教官の倉澤先生と佐藤先生も、怒るときは怒られたけれど、面白い話や学校じゃ教わらないような話をしてくださったりと自分達に様々なことを教えてくれました。海洋科の先生方、船員の方々、乗船教官の倉澤先生と佐藤先生、大島丸、そしてこの一次航海のメンバー、本当に10日間ありがとうございました。今回の乗船で得た事を糧にしてこれからの日々を頑張ります。

鈴木

今回の航海学習を終えて私が学んだことは、乗船を通して多くの人の良い面や悪い面を発見できてよかったことと、また、乗船生活をしている中で協力して助け合うことの大切さ学ぶことができました。例えば、食当の準備の時や集合時間の5分前になる時の声かけをしてくれていた人、船酔いで動けなくなってしまった人の代わりに食当の仕事をしてくれていた人などいろいろな場面で、良い面を発見でき、また協力して助け合うことが重要であることも知ることが出来ました。

あともう一つ学んだことがあります。それは、周りの状況を見て行動し他人任せにしないことです。これは、乗船中で一番学んだことです。

なぜならば、私達4班のワッチの時に、操舵や海図に位置の記入やログブックの記入などワッチに入ったらしなければならない仕事をしていなかったことを怒られて、みんな他の人が何をしたら良いか聞いてくれるだろうと思っていたことから起こったことだと思ったからです。また次のワッチの時では、気象通報する時に雲の形を外に見に行く際に、雲の形の種類が書いてある紙を誰も持たないまま外に出てしまい、周りの人の行動を見ていなかったことから起こったことでした。その後のワッチは、2回のワッチで怒られた事を忘れずに行動し、みんなで仕事を分担してやることができました。



た。

小笠原に行くことはできませんでしたが、神戸に行って、神戸の人と関わることができたり、神戸の食べ物を食べることができ、貴重な体験でした。また、国際系ではやったことのない二十四時間ワッチを体験してみて、23時や3時に起きないといけなかったのは辛かったですが、夜に見える星空がとても綺麗だったことや船員さんといろんな話をすることができ、また多くのことを学ぶことができたので、体験できてよかったです。

最後に、初めは乗船することに不安でしたが、航海学習を終えてから思うと、乗船することができてよかったです。